

# 「大船渡を学ばない大船渡学」で課題解決力を育む

学校名

岩手県立大船渡高等学校

## 1 “大船渡学”導入の経緯

2016年度学年企画として「地域を知る」活動として大船渡学を実施した。しかし、活動を通して生徒は何を学んだのか、大多数の生徒が大学進学を目指す高校で取り組むべきことなのか、など検討の余地が多く、活動の目的や内容の再検討、再構成の必要を感じ、2017年度にモデルチェンジを図った。

大切にしたのは、地域を主、生徒を従にするのではなく、生徒の学びを主にし、地域を従とすることである。地域を主にしてしまうと、生徒も教員も「なぜ地域を学ぶ必要があるのか」を自問自答し、結果として成果物の制作が活動の妥協点となり、「活動ありて学びなし」に陥ってしまう。そうではなく、起点は生徒が探究したいこと、そして学習のゴールは、知を生み出すこと、そしてそのプロセスで習得する論理的思考や見方の変容など「学力の下支えとなる思考力」の伸長、学びに対する主体性の涵養に重点を置いた。

こうした理念を掲げ、地域を学ぶ地域学習ではなく、地域はあくまでフィールドであり、その中で自ら学びたいことを軸に据え、課題解決力、価値を生み出す力、主体性を養う教育活動として再出発した。

## 2 活動概要

時期:5月～1月

活動:総合的な学習の時間、長期休業中課題

対象:1～2年生全員

協力:菊池広人氏(大船渡市民活動支援センターアドバイザー)

## 3 内容

### (1) 1年生は地域課題調査からアクションへ

- 5月 基調講演「なぜ地域課題探究か」  
大正大学地域構想研究所 浦崎太郎氏
- 6月 自分が学びたいことを深める。  
自分が学びたいことと地域を繋げる。(マッピング)  
学びたいことのマッチングによるグループづくり
- 7月 問い磨き(ルーブリックに基づいたディスカッション)
- 8月 地域課題調査(フィールドワーク)
- 10月 アクション
- 11月 アクションのブラッシュアップ
- 12月 アクション中間報告
- 1月 アクション実施、発表



### 生徒のアクション例

- ・化学に興味を持っている生徒。飲用している家の井戸水の成分分析を実施。結果市販のミネラルウォーターと同じだった。そこで、日頃市地区の柿を使って蒸留によりフレーバーウォーターを作る。
- ・福祉に興味を持つ。高齢者の孤立に興味を持ち調査。社交の場を作るために社会福祉協議会や地元のNPOと連携してお話サロンを開催した。

(2) 2年生は学びたいことを深め、探究を通して志望理由へ

- 5月 基調講演「なぜ地域課題探究か」  
大正大学地域構想研究所 浦崎太郎氏
- 6月 自分が学びたいことを深める。  
自分が学びたいことと地域を繋げる。(マッピング)
- 7月 仮説づくり(ルーブリックに基づいたディスカッション)
- 8月 仮説検証
- 9月 振り返り
- 10月 探究をさらに深め志望理由へ



生徒の仮説検証の例

- ・地域の外国人労働者を調査したところ、中国人と並んでベトナム人が多いことに気がつく。群馬県の大泉町を例に、ベトナムをつくって特色を出せるのではないかと仮説を立て検証した。
- ・大船渡の特産品に対する付加価値を高めれば、観光や産業の活性に繋がるという仮説を立て、大船渡市の主催するさかなグルメのワークショップでサンマ料理の新メニューを考案し発表した。

#### 4 ルーブリック

活動に当たっては、ルーブリックを提示し、生徒と先生で共有している。  
(下はアクションに繋げるためのルーブリックの例)

◆ “アクションにつなげるためのルーブリック(評価基準)”

質問	タイプ	先生による声かけの例
× 大船渡の福祉の問題を解決するために人々のつながりを作る活動をした。	企画漠然型 目標漠然型	つながりってどういう状態なの？現状はつながりが無いの？つながりをつくるって具体的に何をやるの？誰と誰をつなげるの？どうすればつながりをつくることができるの？ゴールはどのような状態？
△ 大船渡の福祉の課題を解決するために、独居高齢者たちをつなげるサロン活動を企画したい。	内容漠然型 目標漠然型	なぜ独居高齢者なの？なぜ繋げなくてはいけないの？なぜサロン活動なの？サロン活動って何やるの？あなたが考えているサロン活動を映像にして表現して？本当に出来るの？ゴールはどのような状態？
○ 大船渡の独居高齢者に他者とのつながりを得る機会を提供するために高校生によるサロン活動(お話し会)を企画したい。	企画明確型	なぜサロン活動(お話し会)なの？そういうニーズはあるの？それで本当につながりを作ることが出来るの？どういう調査内容に基づいて、それが必要だといえるの？
◎ 大船渡でも隣人つきあいも減り、独居高齢者の見守りが難しくなっている。大船渡学で独居高齢者の方々に取材をしたところ、おしゃべりをする場が欲しいという話が出た。そのニーズに応えるために高校生によるサロン活動(お話し会)を企画したい。	調査を踏まえた 課題解決型アクション	本当にそれはできるの？本当に結果にコミットするの？

#### 5 参考

- ・リクルート『キャリアガイダンス』10月号—「大船渡のことを学ばない大船渡学」で自ら知を生み出せる人に
- ・大正大学地域構想研究所『地域人』第27号「大船渡高校一人材育成の価値を地域と共有し、探究活動を展開」